

愛知県立芸術大学キャンパスマスタープラン2011作成委員会議事要旨

第2回

開催日時：平成23年11月9日（水） 午後2時から午後3時40分

場 所：愛知県立芸術大学 音楽学部棟 1階 大演奏室

出席者：配席図のとおり

（公共建築課は若月主幹が代理出席）

【主な発言要旨】

（キャンパスマスタープラン2011の骨子（案）について）

○キャンパスのゾーニングと施設拡張の右下の「音楽学部」という表記について、現音楽学部棟は、今後改修を進める上での避難地であり、又、将来の種地となることも考えられる場所であり、「音楽学部」の名称は検討していただき、第2期、第3期の構想をも見据えたものとした方がよいと思う。

○現音楽学部は、改修のローテーションの中での避難施設であり、改修がすべて終わった段階でその後どうするかを考えればよいと思う。キャンパスマスタープラン2011の段階では、現音楽学部棟はローテーション用の施設として考えておけばよいと思う。

○駐車場の確保が必要であり、新学生寮の南側の部分はその候補地として考えられる。

○新学生寮の南側は、高いポテンシャルを持っていると考えているが、現時点では教員住宅の建物が残っており、今後について未定なので、どのように示すか躊躇（ちゅうちよ）した。

○現状の問題等、数値を記載していることを含め、分かりやすい資料となっていると思う。間の空間まで配慮した非常に細かいものとなっており、どこまで厳しく規定していくかを考える必要がある。

○拡張用地は、拡張する可能性を示したものである。既存施設を改修することが第一であり、改修では足りないときに伸びる方向を表している。

○コアを囲む建物群の記述はあるが、間の空間に対する記述はないので、間の空間を構成している建築群も、コアの建築群と共に、原則として保存・改修して継承していくと

ということがわかるように記述すべきである。前回、「オーセンティシティ」という言葉を出したが、建築の評価だけでなく、耐震機能、バリアフリー等、手を入れるときに吉村思想を壊さないということ表現するいい言葉が別に見つからないため、説明付きで「オーセンティシティ」という言葉を使用し、常に原点に配慮するためにこれからの検討会にこの言葉があった方がいいと思う。新音楽学部棟については、説明をきちんとして社会的に認められるようにしなければならないと思う。

○各建物の改修については次年度以降詳細に検討を進めることにしたいと考えているが、改修方法等検討する際にオーセンティシティということを考えながら進めていきたい

○大学の考え方がきちんと伝わるように資料に説明を加え、コアや間の空間等について記載していきたい。

○間の空間は、キャンパスのランドスケープとまとめてゾーニングすることとする。

○オーセンティシティについては、建築学的な解釈と芸術的な解釈があり、そのあたりを注意しなければならないと思いますので、そのあたりをぜひお教えいただきたい。

(今後のスケジュールについて)

○骨子（案）について、今後意見聴取を行う予定。

○現在、学生アンケートを集計中であり、今後、いろいろな要望に対し検討を進め骨子として公表したいと考えている。

○次回の開催日につきましては、当初12月としておりましたが意見聴取等の時間も必要なため1月に開催することとしたい。

[次回は1月19日（木）午後3時30分から開催の予定]